

1月7日 録画視聴用の逐語翻訳

「学校に対話を！修復的対話の体験会」にご参加くださいました皆様

録画視聴用の逐語和訳がやっと完成しました。ノルウェーの Nina とイギリスの Jim にも必要な箇所を修正してもらい翻訳ソフトを用いて、和訳しています。自動字幕翻訳が不調にて、ご迷惑をおかけしましたが、同時通訳等は高額のため財政的に依頼できません。ご理解を賜れますよう、宜しく願い致します。

修復的対話の会 梅崎

※梅崎の発言に関しては、日本語でもご説明しましたことから省いております。

## 前半

---

【Nina】 ノルウェー（オスロ）

今日、皆さんとご一緒できることをうれしく思います。

私はこれまで、高等教育、中等教育、そして小学校まで、ずっと教育の現場で働いてきました。私は14年間、中等教育と高等学校で教えてきました。また、長年にわたり学校のリーダーを務めてきました。幸運にも、教師として、また校長やプロジェクトマネージャーとして新しい学校を立ち上げることができ、この学校を率いていたとき、修復的実践が私たちの仕事のやり方にすべきだと決心したのです。

私はまた、いくつかの教科書を共著で書きました。そのうちの一冊は、修復的正義と学校での修復的サークルに関するものです。

スライド 2、3 ありがとうございます スライド 3

今日は同僚を数人連れてきました。私たちの仕事のやり方について、皆さんに学んでいただきたいと思っています。

ノルウェーにおける修復的実践は25年以上の歴史があり、ノルウェーはスカンジナビアにおける修復的実践とピアメディテーションの先駆者と見なされています。私は、この修復的正義の実践をどのように発展させてきたかを簡単にご紹介したいと思います。私たちの修復的対話の実践は、暴力を防ぐためのピアメディテーションから、良好な人間関係の構築と包括的で安全な校風に重点をおいた「学校全体へのアプローチ」へと変化しています。ウェルビーイングをいかに高めるかという取り組みに変化しています。

スライド 4 です ありがとうございます

第1段階は1995年にピアメディエーションが政府によって開始され、600校以上がプロジェクトに参加し、2014年には小中学校の9%がプログラムの一部としてピアメディエーションを導入し、高等学校では5%が導入しています。

次のスライド スライド5

2001年からは、ピアメディエーションをフォローアップする責任が教育当局にあり、オスロ市はそのフォローアップを行うとともに、各学校が活動を継続する方法を自ら決定し、学校はどのプロジェクト、どのように活動するか、より自由に選択することができるようになりました。

2001年から2010年までの第2フェーズでは、修復的コミュニケーションに焦点を当て、修復的対話サークルが展開されました。修復的対話サークルは、安全で強力な学習コミュニティを構築するために用いられます。そして生徒のウェルビーイングを育みます。このようにいくつかの変遷がありました。

2001年から地方教育機関はフォローアップする責任があり、ピアメディエーションに関してフォローアップしています。オスロは、そのフォローアップをしています。もちろん各校は、それぞれがどのように修復的正義アプローチを維持するか決めることができ、学校はこのプロジェクトをどのように行うかを自由に選択できる訳なのですが、結果的に、ピアメディエーションを用いる学校は減少し、修復的対話サークルでの指導を校内で用いているという報告が増加しました。セーフ・ラーニング・ノルウェー (NGO) が求められ、設立されて、ここに同僚がいる訳ですが、この修復的対話実践を行う各校に資金を提供して、学校での修復的対話活動を推進しています。

次のスライドをご覧ください。

第3フェーズ、今日の主な焦点は主に修復的实践とピア・メディエーションで、どうすれば生徒が生き生きと学校を楽しみ、帰属感を感じ、コミュニティの一員であると感じ、集団の中で行動し、発言することができるようになるか、そしてそこから、学校での成績が良くなるようにするかということです。

というのも、サークルでは、自分たちがどう感じ、どう反応し、どう応えるかを話し合います。研究によると、生徒の感情の豊かさを大切に、認めれば、学校での成績が良くなり、気分が良くなり、さらに成績が良くなります。しかし、今、一番大切なのは、楽しく過ごしていること、友達がいること、自分の居場所があると感じることです。私たちは、排除の予防に力を注いでいます。排除やいじめ、暴力、人種差別を防ぐことに注力しています。修復的対話実践は、統合教育の一環となることができ、教育や学習の一部なのです。修復的实践は、一定の基準、普遍的な考え方、そして各学校に独自の焦点、特定の分野を選択する機会を与える方法であると私たちは考えています。

さて、少し休憩を取りましょう。

生徒の様子はまた後ほど

【Jim】 イギリス (北アイルランド・ベルファースト)

konnichiwa ありがとうございます。

40年間ソーシャルワーカーとして働いてきました

過去30年間、調停や紛争解決、修復的实践に携わってきました

主な仕事は紛争の解決と交渉です

北アイルランドで起きた内戦や紛争後の混乱期には、コミュニティや戦闘員たちと一緒に仕事をしまし

た。

私たちは、修復的アプローチとサークルタイムを用いて両者を結びつけ、互いを理解し、相違点を解決する手助けをしました。ソーシャルワーカーとして

私はソーシャルワーカーとして、この種の実践を学校や家族、子どもや高齢者に紹介してきました。学校、地域社会、青少年犯罪者、被害者、そして家族の対立と虐待を専門としてきました。

私の専門は修復的实践（restorative practices）です。家庭や地域社会などの複雑な状況において修復的实践を行うことです。私は国際的な講演者であり、作家であり、修復的实践者である。

修復的实践の社会的背景を説明したいと思います。1970年から1989年までの25年間、私たちは40年以上続く多くの紛争に見舞われました。この紛争のために、警察や政府のサービスを信用できないコミュニティがあり、彼らは自分たちのコミュニティを守るために非合法的な準軍事組織を頼りにしていました。これらのグループは、コミュニティ内で悪事を働いた人物の処罰を決定し、処罰を与えていたのです。

運が良ければ、彼らは地域社会から追放され、国からも追放され、通常はイングランドに行って生活することになります。

そうでない場合は、足首や膝頭、手などを撃たれる。最悪の場合、処刑される。

北アイルランドのある地域では、これが普通だった。

それぞれの刑罰は、その人が何をしたのか、地域社会に警告を発している。足首を撃たれた場合は、車の窃盗や趣味で盗んだ車で高速かつ危険な運転をした(joyriding)ため。

膝小僧を撃たれば、強盗や麻薬乱用、両手を撃たれば、性的虐待だ。停戦とその後の和平合意に向けて、準軍事組織は反社会的行為に対処するためのより人道的な方法を探しました。私たちは準軍事組織内の個人と協力し、彼らは修復的司法を試みることに同意していました。

害を与えた人と、害を受けた人、そしてそのコミュニティが一緒になる方法です。

彼らは、修復的司法が地域社会にどれほど良い影響を与えるかを認識し、それぞれの地域社会でこの方法を採用しました。青少年司法は、裁判所に出頭した若い犯罪者のために、裁判所でこのプロセスを同時に使い始めました。より進歩的な学校では、教師たちが、いじめ防止や容認できない行為に対処する方法として、修復的实践を用いるようになったのです。

進歩的な学校は、生徒を退学させても彼らの行動は変わらないし、伝統的な方法で罰を与えても変わらないということを認識し始め、地域で何が起きているかに目を向けました。従来の刑罰では、退学になった生徒の92%が容認できない行動を繰り返し、さらに、退学になった子どもは犯罪行為に走るリスクが高いという調査結果が出ています。

私たちの小学校では、サークルタイムを早くから採用し、地域社会への帰属意識を高めるとともに、報復や笑いを恐れることなく、子どもたちが自分の懸念や希望、願望を口にする機会を提供しています。

1997年のナンシー・リーゼンバークの研究によると、この方法を採用した学校では、生徒が人生に対してより前向きな見通しを持ち、許容できない行動に挑戦できるようになり、コミュニティに対する責任感が強まり、学業成績も向上したとのことです。

次のスライドをご覧ください。

修復的連続性とは、一過性のアプローチではなく、組織や地域社会に導入する必要があるさまざまなアプローチです。まず、ユニバーサル・エンゲージメントですが、これはとてもシンプルなもので、私たちが使い、奨励しているものです。

広いコミュニティの中のすべての人を大切にし、その人がどこから来たのか、どのようにしてそこに至ったのかを良くも悪くも、あるいは無関心であっても認識することです。傾聴、肯定的な発言、非暴力的なコミュニケーション、そして非審判的であること。もう一つは、非公式な実践で、これはすぐに使える実践です。

単発で、あるいは大きなプロセスの最初に行うことができます。

修復的質問、三者間シャッフル、感謝的質問、非公式の調停、非公式の交渉、理解のための質問、個人中心の実践などです。

## 後半

---

### 【Nina】 ノルウェー

こんにちは、またまた登場です。

まず最初は、高校3年生で、学校でピアメディエーターをしている若い女性へのインタビューです。

これは9番のスライドで、録音です（事前に追加した資料参照）。

これは、すべての学校にあるべきものだと思います。なぜなら、いつでも相談できる生徒がいるべきだし、友達はいつもそこにいるわけではないし、もしかしたら病気かもしれない。そして、昼休みや休み時間に誰かと話したり、一緒に座ったりしても、場違いな感じがしないし、一人でいることが居心地が悪く感じることもないからだです。

（録音終了）

彼女はクラスメートの良き理解者であり、学校で素晴らしい仕事をしています。

次にご紹介するのは、小学校の社会科教師であるクリスティナ・アルンスヨ・バッケンさんとのインタビューです。

スライド 11

はい、アイコンをクリックしてください。

（事前に追加した資料参照）。

N：今日はクリスティーン・アーンズヨ・バッケンさんにお越しいただきましたが、彼女は小学校で社会科の教師として働いています。

K：安全な学習と聞くと、紛争を未然に防いだり、紛争に対処するためのさまざまな方法が詰まった道具箱のようなものを思い浮かべます。

K: いい質問をすることで、対立している部分が自分たちの対立であることを知り、彼らの関係を回復させることが目標です。また、さまざまな方法で社会的能力を高め、教室をいい雰囲気にするためのツールでもあります。私たちの学校では、生徒間の対立を解決するために、さまざまな方法でセーフ・ラーニングを使っています。

K: 私たちは3つの質問をします。何が起こりましたか？それによりどんな影響を受けましたか？そして、お互いの将来についてどう思いますか？私たちは、生徒と話すのではなく、生徒と一緒に話すことを心がけています。時には to で話すことも必要ですが、常に with で話さなければなりません。

K: その後で。生徒たちは輪になって座り、話したり、遊んだり、さまざまなエクササイズをすることで、さまざまな問題について話すだけでなく、感じるができるのです。また、ピアメディエーターが学校の環境を整えてくれます。6年生になると、全員が紛争とその対処法についてのワークショップを受け、その後、生徒たちはメディエーター(調停者)になることを申請できます。選ばれた生徒は、紛争について訓練を受け、紛争中の生徒と話す方法や、さまざまな方法で助けを必要としている生徒を発見する方法を学びます。例えば、孤独や悲しみ、遊びたい、紛争に対処するための助けが必要な生徒などです。そして、調停役は7年生になるとメディエーター(調停役)になれます。安全な学習については、1年生と6年生の保護者会で説明します。私たちが対立についてどう考えているか、子どもたちとどう話しているかを保護者に知ってもらうことは、私たちにとって重要なことなのです。

N: すばらしいですね、それに対して保護者の方々はどのような反応をされるのでしょうか？

K: 素晴らしいことだと思いますし、私たちが平時の対立のあり方について話すときにも、そうだと思います。だから、親はとても満足しているんです。

(録音終了)

はい、ありがとうございます、では次のスライドをご覧ください。

それから、これはアルンスヨ・バックケンさんが話してくれたことですが、これは彼女が話してくれたことの一部です。

では、次のスライドをご覧ください。

そして、私たちの NGO の部長である Gunhild がここに来て、自分の学校で修復的实践をどのように使っているか、話してくれるでしょう。

### 【Gunhild Solem, Head of Dept.】

私はオスロの高等学校で学校経営に携わっています。

私は、キャリアアドバイザー、ソーシャルアドバイザー、ソーシャルワーカー、学校保健サービスなどを含む学生サービス部門のマネージャーを務めています。

私たちの学校には約 650 人の生徒がおり、男子生徒が非常に多く、男女比は男子生徒が 70%、女子生徒が 30%となっています。生徒の多くは少数民族の背景を持ち、学力レベルは概して低く、経済的暴力や薬物などの問題を示すストレスの多い生活環境にある生徒も少なくありません。課題はありますが、私たちは生徒をととても大切に思っていますし、社会的・専門的な学習を通じて、彼らの良い未来に貢献

できると信じています。

このスライドでは、私たちの教育プログラムをご覧ください。そして、主に職業訓練があり、生徒たちは厨房や他の場所で働いています。

そして、次のスライドをお願いします。

ノルウェーの教育法では、すべての生徒が、健康、幸福、学習を促進する安全で良好な学校環境を得る権利を有するとされています。そして、学校は生徒の健康環境と安全を促進するために、継続的かつ体系的に取り組まなければなりません。

生徒たちは、環境が安全でインクルーシブであるとは感じていないと報告し、これは保護者たちからも支持されました。

それから 2018 年ぐらいから戦略的プラン、ちょっと何年かが不確かですが、社会事業部門に設立されて、これは、社会福祉事業のための部門を設立し、修復的アプローチを実施することでした。

そして、これはポジティブな行動を促進し、インクルーシブな学習環境を作るために行われました。修復的思考、オーナーシップ、参加、平等、人間関係重視の価値観に基づいて、共通の文化を構築しています。私たちはまだその過程にいます。2014 年、私たちは、継続的かつ体系的に、私たちの仕事の仕方を改善し、調整するために取り組んでいます。

次のスライドをお願いします。

ホールスクールアプローチは、一番下のレベルでは、すべての生徒の学習能力に必要なものを学校全体で行う普遍的な取り組みを示しています。

そして、その次のレベルでは、特定の個人や物事がうまくいかないときの介入を目標としています。

そして、一番上のレベルでは、より深刻な事態に対する危機介入を行います。

このモデルは、私たちの学校での取り組み方を示しています。学校全体のアプローチでは、一番下のレベルは普遍的なレベルで、このレベルにどれだけの努力をするかによって、そのレベルや一日にどれだけの時間と労力を費やす必要があるかが変わってきます。

学校には、若者の学力向上だけでなく、社会性や情緒の発達、保護など、より大きな役割が期待されていることを常に意識しておく必要があります。

次のスライドをお願いします。

学校環境からの写真です。

ソーシャルワーカーは、すべての生徒にとって安全な環境を作るために毎日働いています。また、学生サービスは、若者の心身の健康について幅広い能力を持ち、歓迎と暖かい雰囲気毎日貢献しています。そして、一番上の写真では、何人かの学生が食事をしています。毎朝、学生とスタッフは、笑顔のソーシャルワーカーによる朝食に出迎えられるのです。

私たちは、この朝食を「チェックイン」の場として捉えています。朝食をとることで、生徒たちは落ち着き、リラックスし、学校外の問題から解放されることを願っています。

学校では歓迎され、誰に対しても公平に接することができます。

ソーシャルワーカーは、この写真の真ん中にあるように、タコに例えられています。彼らは同時にどこ

にでもいて、すべての生徒が少なくとも一人は良い関係を築ける大人がいて、その人の中で安心できるようにすることが目的です。

そして、次のスライドをお願いします。

この写真は、ワークショップの様子です。サークルタイムでは、民主的な価値観を実践するための普遍的な方法として、ワークショップとサークルタイムを体系的に授業で使っています。

すべての生徒が声を出し、お互いの話を聞き、自分の意見を述べる練習をする必要があるのです。

また、安全でない環境のクラスでは、サークルタイムを使用します。ワークショップは、そのようなクラスの人間関係を癒し、再構築するために使用されます。

次のスライドをご覧ください。

そして、人間関係がうまくいかないときには、サークルタイムを使ったり、先生と生徒、生徒と先生、先生と親、先生と先生の間で修復的な対話をしたりするのです。

次のスライドをご覧ください。

私たちの目標は、修復的な教室を作ることです。これは、教えるための場所であり、自分自身や他の人、カリキュラムとのつながりを作ることに基づいて学習する場所です。誰もが、つながり、尊敬、相互理解を維持するための言葉を使う場所です。これらのつながりが途切れたときには、修復のプロセスを用いて再接続を促す場所です。

ありがとうございました。

#### 【Nina】

それでは次のスライドをご覧ください。

ここでシグリッド・フーグさんをご紹介します。

#### 【Sigrid Houg, Safe Learning Ung/ Young】

私はノルウェーのセーフ・ラーニング・ヤングで働き、ヤングからヤングへの学習という観点から実践しています。これは、私たちが誰であり、何をしているかということです。

私たちは、若い人たちが一緒になって、紛争を解決するための良い方法を探しています。

Safe Learning Young は、非暴力的なコミュニケーションについて若者を訓練し、彼らがコミュニティの若者と知識を共有できるようにします。

私たちの焦点は、若者が若者に教えることができることです。私たちは、さまざまな状況で役に立つツールを提供し、必要なときに責任を取れるように訓練しています。

次のスライドをご覧ください。

これは、私たちがこれまでに行ってきたことです。小中学校を対象としたピアメディエーション・トレーニングを行いました。若い活動リーダーを対象としたリーダーシップコースを実施しました。また、ピアメディエーターがノルウェーのセーフ・ラーニング・ヤングのトレーナーになるためのトレーニングコースも行いました。

また、今年は多くのプロジェクトが予定されています。学生福祉担当者のトレーニングも行いたいと考

えています。

また、オスロのサッカークラブで若いリーダーを育成することも考えています。

また、学校でのオープンデーのために、インクルーシブツールを使った若い人たちのトレーニングもやりたいと考えています。

これらのコースでは、修復的対話サークルと非暴力コミュニケーションを使っています。

次のスライドをお願いします。

オーケー

### 【Nina】

修復的サークルは、生徒が抱える登校拒否や不登校を防ぐためにも非常に有効な手段です。そして、すべての行動はニーズに基づいており、私たちは氷山の一角しか見ておらず、その下にあるものを見つける必要があることを自分に言い聞かせています。傷はどこにあるのか？そして、これはすぐに解決できるものではなく、時間がかかるものであり、生かし続けなければならないことを思い起こさせるのです。

そして、学校コミュニティのすべての関係者が、この働き方と考え方にオーナーシップを持つことが重要なのです。

そして、教頭として、全教職員がこのマインドセットを持っていれば、生徒との話し方、クラスでの修復的サークルの使い方、対立を同じように解決していることがわかります。また、保護者ともうまく連絡を取り合い、共通の価値観を共有しています。そして、ニルス・クリスティ教授は、私たち小さな NGO の「おじいちゃん」のような存在で、ある会合で私たちにこう言ってくれました。この仕事から最も成長できる可能性があり、クラスメートの間で地位のある学生をメディエーターとして起用しなさい。彼らは素晴らしい例を示してくれますし、非常に優れた代表者になってくれるはずです。また、クリスマス前に教育大臣の Tonje Brenna が、テストや採点、成績にこだわるのではなく、生徒の幸福にもっと関心を持ち、彼らが実際に学校を楽しめるようにする必要があると言っていたことも、少し触れておきたいと思います。私はこの点で、彼女が正しいと思いますし、だからこそ私はこの「働き方」に携わっているのです。

それでは、ありがとうございました。

### 【Jim】 イギリス（北アイルランド・ベルファースト）

修復的連続体に話を戻しますが、Nina のスライドの三角形と同じように、これは非常によく似たもので、私たちが発見したのは、ユニバーサル・エンゲージメントを使うことで、修復的会議、家族グループカンファランス、理解するための集会、メディエーションミーティングなどの正式なプロセスや、より正式な修復的対話サークルを使う必要がないということでした。

修復的カンファランス、家族グループカンファランス、理解するための集会、メディエーションミーティングなどの正式なプロセスや、より正式な修復的対話サークルを使う必要がなかったのです。

次のスライド6をどうぞ ありがとう

小学校は、サークルタイムをプロセスとして使用し、修復的实践を適応させた最初の学校でした  
ポスト小学校の中学校は、修復的な小学校から来た子どもたちが、修復的な取り組みをしていない小学校から来た子どもたちに比べて、より責任感が強く、自信を持ち、尊敬の念を持ち、攻撃的ではないことに気づきました。そこで、教室でのサークル、修復的調停技術、修復的言語、修復的子育てクラスなどの独自の修復的アプローチを採用しはじめました

次のスライド7

北アイルランドでいち早く修復的实践を取り入れた学校を紹介します。

これは、ヘーゼルウッド・カレッジで、インクルーシブ(統合)学校です。インクルーシブ(統合)学校とは、プロテスタント、カトリック、その他の信仰を共に教え、共に学ぶ学校です。北アイルランドでは、学校は分離されていました。

この学校は、すべての人をひとつにまとめていますが、特にベルファストの北部は、英国で最も危険で経済的に恵まれない地域でしたので、それなりの困難がありました。この地域では、カトリックとプロテスタントの子どもたちや大人たちの間に、多くの緊張と暴力がありました。

1999年に修復的アプローチを採用した学校では、生徒たちが自分たちの違いについて話し合い、どのように協力できるかを確認するため、すぐに対立が減りました。しかし、修復的アプローチの支持者が移動したため、このアプローチは約6年間中止されました。

学校は、緊張が再び高まり始めたことに気づいたので、2014年にこのプロセスを再び導入しました。このプロセスを再導入した結果、学校はより調和的になっていることがわかりました。

次のスライド8

バランス・モデルというのは、被害を受けた人のニーズ、被害を与えた人のニーズ、学校のコミュニティーのニーズを満たすものです。

被害を受けた人のニーズは、多くの場合、何が起こったのか、なぜ自分が選ばれたり、いじめられたりしたのかを理解することでもあります。

また、自分が傷つけられたことを認識することも必要であり、被害を与えた人物のニーズでもあります。多くの場合、それは彼らが引き起こした危害を是正し、何らかの謝罪をする機会であり、また、コミュニティが傷つき、損害を受けたことを認識し、損害を与えた人は、コミュニティと学校内での損害を修復する必要があるのです。それは、学校内での援助であったり、学校全体への謝罪の手紙であったり、あるいは単に自分が引き起こした害を認識することであったりします。

次のスライド9

残念ながら、ノルウェーと違って、朝早くから人を集めることができなかったので、インタビューの内容を書き起こします。この学校には5人の生徒がいますが、彼らが修復的実践の経験について語ったことを以下に紹介します。

「以前なら先生を怒鳴りつけていたかもしれないが、修復的対話をした後は自分の行動を変えるように

なった。」

「また、友達グループでも使うことができました。私たちはすべてを知っているので、仲たがいすることはありません」。

「以前なら、喧嘩の仲裁に専念して、自分の仕事に集中できなかったもので、成績の向上に役立っていません。」

「以前であれば、落ちこぼれを気にして仕事に集中できなかったと思いますが、今は対処してもらえることがわかっているので、怖くなく、常にそのことを考えている必要がありません。」

「修復的対話アプローチを始めてから、学校はよりポジティブになりました。先生方との関係もより良好になりました。」

「私たちはより幸せで、より安全で、何か悪いことをしたときにはより正直になります」。

これは、修復的実践に関する国際的な研究・評価の結果を反映しています。学力レベルが上がり、生徒たちは修復的アプローチをよく理解し、それを学校で使うだけでなく、家庭や地域社会にも持ち帰っています。

#### 次のスライド 10

学校での体験 「私たちの考え方には、大きな変化がありました。従来の罰というアプローチから、生徒が他人を傷つけることの影響を理解し、自分の行動を自分でコントロールできるようにすることに移行しました。外部からのしつけの代わりに、生徒たちは内部で自らを律することを学んでいるのです」。

"グループや1対1の衝突が大幅に減ったので、それを深く掘り下げ、行動方針に完全に埋め込んでいます"とあります。行動ポリシーを人間関係ポリシーに変えている学校もあります。"行動管理よりも人間関係の学習が重要です"

「人間関係を修復せずに罰や制裁を加えても、問題は解決しないことがわかります。人間関係の構築と学習が問題を解決し、行動に大きな影響を与えるのです」。

興味深いことに、校長は、10代の少年たちが教師との前向きな関係に前向きであると話しています。彼らの人間関係の学習は非常に前向きで、私たちはまだ旅の途中です」。

「私にとっては、修復的実践とは、学校での生徒の学習だけでなく、生涯学習であり、生徒が大人になったとき、そして家族にも伝えていくものです。

#### 次のスライド 11

私たちは常に、生徒と教師の関係が修復されていることを確認し、学校に入ってきたときに「安全」だと感じられることが重要です。生徒が教室に戻ってきたときに、教師が生徒と一緒にいて心地よいと感じることが重要です」。

"学校に来たら、生徒と一緒に修復する必要がある"。

「修復的な学校は、生徒が勉強に集中できるようにし、修復的な実践を再び導入して以来、私たちの試験結果は向上しています」。

「生徒たちは、学校でも家庭でも多くの課題を自分たちで解決しており、保護者からは、子どもが家庭で自分や兄弟と一緒にそのスキルを使っていると報告されています」。

「生徒たちは、学んだツールやスキルを地域社会でも活用しています。

紛争解決の授業や人間関係は確実に改善され、学校はより調和がとれています。

「ジョアンと話したところでは、学校に定期的に通い、学校と良好な関係にある警察から、ある若者が犯罪を減らしたと報告を受けているそうです。

過去に経験したような頻繁な警察との関わりを持たなくなってきた。

次のスライドをご覧ください

これは、学校全体のアプローチです。Nina は、学校全体のアプローチが非常に重要であると述べました。

すべての人は、集会や通常のサークルタイム、カリキュラムの例を通して、理念や価値観、哲学を紹介されます。すべてのスタッフは、修復的言語、修復的調停、紛争解決について紹介され、訓練されます。

少数のスタッフと生徒が修復的実践を常に促進できるようにチャンピオンとして指名され、一部の生徒は、校庭内または学校全体で対立があった場合、その生徒が第三者として交渉できるように、仲間の修復的調停の訓練を受けています。

容認できない行動はすべて適切な修復的アプローチで対処され、職員は毎週修復的チェックインを行い、保護者には修復的子育てクラスが提供されます。

以下は、その成果の一部です。

これは、2005年から2015年にかけて行われたいくつかの評価結果です。96%の生徒が、あらゆる種類の衝突に対処するためのより良い方法だと感じています。86%が、学校内で自分たちがより大切にされていると感じ、86%が、学校環境の中でより安全で充実していると感じています。

教師は 教師：92%がこの方法を薦めるだろう。また、78%が懲罰的な方法よりも良いと感じ、82%が生徒が規律により反応するようになったと感じている。非修復的な学校での紛争は、ここ英国で蔓延している。修復的な学校で働く教師の82パーセントは、自分たちが安全で幸せであると感じています。

これはかなり重要なことです。

生徒の両親は、自分の子どもの雰囲気の違いがあることに気づきました。彼らはより幸せになり、自信を持って教員に話しかけ、教員の懸念に耳を傾けることができるようになりました。興味深いことに、彼らは子どもたちと一緒に宿題を手伝うようになったのです。

読み書きが苦手な親でも、子どもの学校生活の一部になりたいと思い、子どもが学校でやっていることに興味を持ち、宿題を手伝うようになったのです。

そう、これが私、そして次のスライドです。

ありがとうございました。そして、私は今、100万人の自分自身と他の誰もが質問を受け入れることができることを知っています。

休憩

## 質疑応答

---

Q1 教育の目的について：日本の学校では教育の目的が読み書きなど知識とアカデミックスキルの獲得に目標がおかれていますが、ノルウェーやイギリスではどうなのでしょう？

【Nina】

はい、質問ありがとうございます、私はこの質問にお答えできることをうれしく思います。  
ノルウェーでも、もちろん、読み書きを学び、自分を表現するスキルや、I.T.のリテラシーを身につけることは重要です。それはもちろん重要ですが、私たちのカリキュラムでは、以前は2つのパートがあり、1つは民主的な幸福な市民で、地域社会に積極的に関わり、簡潔に言えば、それは最初のパートであり、次に、どんなスキルやどんな能力目標を生徒が持つべきかというパートでした。私が学校で見たところでは、生徒が話しかけられ、関わりを持ち、感情の取り扱いについても子どもたちに教えているようです。そして、いじめよりもハラスメントに対抗することが重要で、社会的学習と学問的学習を一緒に行う必要があります。では、ジムもお願いします。

【Jim】

感情的な知性はとても重要です。個人だけでなく、社会全体にとっても、人間関係の学習は生涯学習のためにとっても重要で、ここイギリスや英国の教育心理学では、人間関係の学習がとても重要であると認識されています。

ある心理学者と話したのですが、彼らのレポートや発見していることは、修復的アプローチを採用している学校は、そうでない学校に比べて、生徒がパンデミックからずっと早く回復しているということです。まだ測定はされていませんが、これが彼らの観察結果です。生徒たちはより早く回復し、パンデミックによるトラウマも少なく、ロックダウンの経験を通じて話すことができるようになりました。

好きな先生のことを思い出してほしいんです！学校での好きな先生について考えてみてください。その先生はどんな資質を持っていましたか？その先生について考えてみると、修復的な先生になるために必要な資質をすべて持っていました。彼らはあなたに興味を持ち、あなたの学業成績だけでなく、あなたを全体として見ていたのです。彼らは、あなたの学問的な幸福だけでなく、感情的な幸福にも関心を持っていました。

すみません もう一度ノルウェーの若者に聞いていいですか？もっと重要なことは何ですか？

[Y]

私は最近高校を卒業したのですが、あなたが言ったように、好きな先生について考えてみました。あなたの言う通り、社会的学習と教育的学習の両方を実践する良い先生で、そのバランスが良いので、良い教育やクラスでの良い経験になります。このバランスを実践する先生と学問的価値だけを実践する先生がいると、本当に大きな違いがありますから、クラスでのバランスの実践をとっても大切にしています  
ありがとうございます

Q2 サークルを立ち上げる際に、どのように提案すればいいのでしょうか？

【Nina】

質問ありがとうございます

私は、とても簡単な日常的なトピックを提案したいと思います。

サークルに参加するときは、何が起るのか、なぜ起るのか、参加者が安全だと感じ、心配しないように、常に説明する必要があると思います。

[G]私は今まで多くのサークルに参加してきましたが、その中でも特に、ある若者が6週間ほど連続して話さなかったことがありました。実際にサークルの外に座っていた人が、失敗するとサークルの中に入ってきて、それが彼らにとってとても重要なことでした。私はニーナや彼女の同僚と同意見で、簡単なことから始めることが重要だと思います。よりシンプルな.....プロセス、あるいはよりシンプルな方法で.....そして、あなたのスキルが上がるにつれて、それを増やすことができるかもしれません。だから、2つのグループの間に対立がある場合、私が関与するサークルは、他のグループが何を言っているのか理解できるようにするためのリスニングサークルであり、ヒーリングサークルは、人々がその中で癒されるようにするためのものです。そして、ニーナが言ったような日常的な経験を共有するサークルや、責任をもつためのサークルもあります。そして、次に誰かがいじめをしているのを見たら、あなたはどうしますか。そうすることで、例えば、みんながウィリアムは何なのか、それがもたらす影響を認識したり、それを解決したり、人々に挑戦したりするためにコミュニティの一員として何をする用意があるのかを知ることができるのです。

Q3 ノルウェーやイギリスの例では、サークルタイムを強調し、毎日サークルタイムで話すことは非常に効果的だとのことでした。また、コミュニティでは、子どもたちが家庭やコミュニティでどのように説明し、どのように学校に来て、どのような雰囲気や感情を持ち、互いを知っているかは非常に重要だということでした。では具体的に、どれくらいの頻度で行っているのですか？をするのですが、例えば、何回くらい、どのくらいの時間、このサイクルタイムをするのが普通なのでしょうか。

【Nina】

レベル1では、毎朝約30分、この子どもたちは小さなマットの上に座っています。

そして、例えば、良い友達とは何か、友情について話すなど、特に取り組むべき単語を決めて、そつと次の授業に備えます。生徒たち、あるいは8学年から10学年の生徒たちは、週に2回、担当の先生と一緒にサークルの時間を持ちます。

いじめとは何かということについて、過去について議論したり、サークルで話し合ったり、あるいは、世界で何が起っているか、それについて私たちは何を感じているか、心配しているかなど、どんなトピックでも構いません。

どのようなトピックも有効であり、小さすぎるトピックはありません。

[Kaoru]と[Nina]

[K] 1年生は毎日30分、2年生は毎日10分～7分～10分とおっしゃいましたね。

毎日10分、1年生は30分、2年生は7～10分と言ったところでしょうか。

[N]毎日20分から30分毎朝です

[K]1年生から6年生までってこと？

[N]1年生から6年生までは毎朝20-30分ね。7年生から10年生は、週に2回ですね。

[K]ありがとう ではジム お願いします。

**【Jim】**

ええ、私が付け加えたいのは、生徒だけでなく、教員や学校のスタッフも、自分たちのためのサークルタイムがとても重要だということです。

特に月曜日の朝ですが、学校によっては毎朝、スタッフがチェックインして、自分の気持ちを他のスタッフに伝えています。なぜなら、私たちは時々、大変だと思いながら出勤したり、難しい夜があったり、パートナーと口論になったりしますが、スタッフでそれを共有し、あなたがとても元気よく出社したとしたら、同僚の気持ちを知って、1日の間にサポートしたりすることができます。

これは共同体感覚を生み出すことであり、非常に重要なことです。スタッフは自分の感情を共有することができるので、学校の絆はずっと良くなっていると報告しています。人間らしくあること。それは学校が始まる前や、特にこれから1週間のために出発する前に大切です

Q3 では、次の質問をしたいと思いますので、あなたはバランス・モデルについて説明しましたね。

ニーナもまた、バランスについて説明しました。hram 害された人のニーズ、害した人のニーズ、コミュニティのニーズ、修復的正義において、最も重視すべきニーズは、被害者、加害者、そしてコミュニティという意味で、どれでしょうか。

**【Jim】**

一般論としては、被害者のニーズがより重要だと思いますが、私たちは個々に対応しなければならず、常にそのバランスを築くべきだと思います。例えば、ニュージーランドでは、犯罪者主導のモデルを非常に重視しています。加害者主導の修復的司法モデルでは、被害者は取り残され、加害者が優遇されていると感じています。アメリカやイギリスでは、警察が加害者とともに、被害者のニーズを最優先させる被害者主導のモデルを採用しています。加害者のニーズと比較され、加害者は自分の意見を聞いてもらえなかったと感じるのです。一方、バランス・モデルでは、両方のニーズが満たされていると感じます。しかし、被害を受けた人が求めているのは理解であって、必ずしも謝罪や罰を求めているわけではありません。また、特に人間関係が重要な学校では、3～4年間若者と働き、良い関係を築いてきた先生が、その若者が何らかの形で被害を与えたり傷つけたりした場合、なぜその教師を選んだのか、そのニーズを満たすことができれば、若者がそのネガティブな行動から離れることが証明されています。です

から、私は、すべてのケースを個別にとらえることが重要であり、それを検討することになると思います。時には、地域社会のニーズが、被害に遭った二人のニーズよりも大きい場合もありますし、一人のニーズがもう一人のニーズを上回る場合もあります。それは、人それぞれですが、一般論として、私は被害者と言いたいですね。

Q4 イギリスやノルウェーでも.....障害のある子、知的障害、精神障害など、障害のある人たちがグループに入ることが困難な場合、どのようなアプローチを用いていますか？どのようにして学校でその人たちと協力しているのか、つまり修復的アプローチを用いていますか？

ニーナ お問い合わせ

【Nina】

はい はい ありがとうございます ノルウェーの学校は 全員参加型です 少なくとも全ての生徒とそのニーズに応えます 私たちは最善を尽くします 法律でそうすることが義務付けられています 私の経験では 特別なニーズを持つ生徒たちは 修復的実践にとってもよく取り組みます 彼らはサークルに参加することが可能なのです

私の経験では 特別なニーズを持つ生徒は修復的実践と相性が良く 訓練を受け グループの一員として参加できます それでうまくいきます もし生徒が少し不安や不満を持っていたら もちろん先生やアシスタントが その子を落ち着かせる手助けをします 何が起こるか事前に説明し できる限り生徒を準備させます でもここにいる私の同僚も 何か言いたいでしょう 彼女にも経験があるのです そうです ノルウェーの学校では、ソーシャルワーカーを使うことが多くなっています。教室の外でも、生徒が歓迎され、居場所があると感じられるような活動を行いたいからです。私たちは皆違うのだから、皆のための空間でなければならない。なぜなら、私たちは皆違うからです。私たちは皆のためにスペースを確保しなければなりません。

2:53:36

[Gunhild Solem, Head of Dept.]

そうそうそう、私は、小学校と高等学校で、特別なニーズを持つ子どもたちのアシスタントをしています。特に高等学校では、社会的なイベントを作り、特別なニーズを持つ子どもたちが参加できるようなスペースを作っています。ありがとう。

【Jim】

特別なニーズを持つ人々のニーズを満たし、サークルや私たちが使うプロセスの中で彼らが安全で快適だと感じるようにすることが重要です。すでに言われていることに付け加えることはありません。

Q5 最後の質問です。

日本では、ひきこもりという社会的な問題があります。彼らは非常に孤立していますが、親にしか帰属しておらず、時にはシングルの親で、学校に行くのが非常に困難です。イギリスやノルウェーにも、そのような人たちがいますか？また、もし、そのような人たちがいる場合、修復的アプローチは有効なのでしょうか？まずジムどうでしょう。

【Jim】

不登校や学校に来るのが困難な若者がいる場合、私たちは2つのアプローチを使って、より広い家族ネットワークとより広いコミュニティに働きかけることが重要だと考えています。親が心配なのかもしれませんし、親が学校に興味がないのかもしれませんし、退学処分を受けているのかもしれません。学校に戻れるようにするための計画を立てることもできます。ここイギリスでは、私たちの修復的アプローチを使っているところは非常に成功しています。家族のサポートを受けながら、生徒を学校に復帰させることができたのです。

家族の支援と学校の支援で、生徒を学校に復帰させることができました。修復的に協力する コミュニティの中に特別な学校との関係がある 特別支援学校に行かせるのではなく、自分の学校に戻し、学校はその生徒を学校そのものに戻すようサポートするだけです。

【N】 ニーナ

不登校や登校拒否はノルウェーでも大きな問題です。特にパンデミックから立ち直ったとき、多くの生徒が学校に戻ることが難しくなります。私の同僚がこのグループの生徒を直接担当しているので、この話題についてもっと貴重な情報を教えてくれるでしょう。

【G】

そうですね、ニーナが言うように、その通りなのです。私たちが学校に戻すことに成功した生徒たちは、彼らとの関係を作ることができたからこそ、私たちは始めたのです。秋に学校が始まる前に、生徒に電話をかけて学校に戻る準備をさせ、学校に招待してスタッフに会わせ、教室を見てもらい、学校までの道りを練習させるなど、ゆっくり、ゆっくり、小さなステップで、生徒のやる気を引き出し、自信を取り戻させるようにしました。そうすれば、ある場合には成功し、またある場合には、この日帰り旅行が成功するのです。しかし、私たちは彼らをあきらめることなく、希望に満ちたメッセージを伝え続けています。ありがとうございました。

【Y】

私は卒業したばかりなので、あまり一緒に仕事をしたことはないのですが、例えば私の働いている学校では、私の同僚が、朝早くから生徒に挨拶するために朝食を摂らせ、生徒を朝から登場させるという話をしていました。学校との関係も重要で、生徒が安全だと感じ、学校にも居場所ができて、家庭で起きていることや学校から遠ざかっていることを切り離すことができるようになると思います。

【Kaoru】

では、ありがとうございました。

もう終わりにしたいのですが、どうでしょうか？

ということで、全部は聞けなかったので、また質問を送りますので、後で回答してください。  
今日はありがとうございました。